

空が広く見え、のびのびと遊ぶことができる園庭と  
四季折々の自然を感じる“子どもの森”がある  
「こころ」も「からだ」も「考える力」も育つ幼稚園

## 奈良教育大学 附属幼稚園の教育



〒630-8301 奈良市高畑町 354 番地  
電話 (0742) 27-9286  
FAX (0742) 27-9287  
WEBサイト <http://www.nara-edu.ac.jp/KINDER/>



なつきよん  
奈良教育大学  
イメージキャラクター

## 本園の教育目標

### 生き生きとあそぶ子ども (安定)

安心感・安定感が土台となり、自分をのびのびと表現し、思いきり自分らしく目を輝かせて生き生きと遊ぶ子どもを目指している。

### 精いっぱいがんばる子ども (充実)

生活の自立、気持ちの自立を目指す。少しずつ自分でできることを増やし、自分に自信をもち、さらにもっといい自分に向かって精いっぱいがんばる子どもを目指している。

### 友達といっしょにのびる子ども (共存)

自分以外の周りの人に目を向け、友達とのふれあいを心地よく感じ、「友達っていいな」という人間関係の土台をつくり、友達と一緒にのびる子どもを目指している。

### ●本園の使命

本園は、国立大学法人奈良教育大学附属幼稚園として、学校教育法に示された幼稚園の目的を達成すべく「幼児の教育」を遂行するとともに、以下のような使命を担っています。

1. 奈良教育大学の教員養成のため、本園を観察学習・教育実習などの現場経験の場として提供し、指導を行い、将来の教育界を担う学生を育てる。
2. 大学との連携のもと、幼児教育の理論及び実践に関する研究をすすめる、幼児教育の質の向上に努める。また、その研究成果を研究紀要や公開保育研究会などを通して、県内外の教育関係者に広く公開する。

### ●学級編成・園児数(定員)

年齢	クラス名	定員	クラスカラー
満3歳児	りす組	15	橙色
3歳児	ぶどう組	15	紫色
	いちご組	15	赤色
4歳児	そら組	30	水色
5歳児	たいよう組	30	黄色
計		105	

### ●職員構成

園長	1名
副園長	1名
クラス担任	5名
養護教諭	1名
非常勤講師	3名
事務職員	1名
臨時用務員	2名

### ●沿革の概要

昭和2年4月 奈良女子師範学校附属小学校後援会昭徳幼稚園として設立を認可され附属小学校校舎内の2教室で保育を始める。  
同年9月 園舎が落成し、移転する。  
昭和36年4月 3歳児保育を始める。  
昭和41年4月 奈良教育大学教育学部附属幼稚園と改称する。  
昭和45年4月 4歳児、1学級増設される。  
昭和46年4月 5歳児、1学級増設される。  
昭和53年3月 幼稚園創立50周年式典を挙げる。  
同年4月 幼稚園園歌を制定する。  
昭和54年3月 新園舎を竣工し、高畑キャンパスに移転する。  
平成11年4月 養護教諭が定員配置される。  
平成16年4月 国立大学法人化にともない、奈良教育大学附属幼稚園と改称する。  
平成19年3月 正門からホールまでの道路を改修する。  
平成21年3月 総合遊具わくわくらんどを改修する。  
平成23年5月 4歳児1学級30人定員とする。  
平成25年1月 子どもの森にツリーハウス・アスレチックを増設する。  
平成25年4月 4歳児・5歳児1学級30人定員となる。  
平成31年4月 4歳児・5歳児1学級24人定員となる。  
令和3年4月 3歳児1学級15人定員2クラス  
4歳児1学級30人定員1クラスとなる。

### ●研究のあゆみ

平成3年 園生活でさらめく感性をもとめて保育をみつめる  
平成4年 一歩ましい保育を探る研究の模索—保育をみつめる—指導計画作成に向けて—教育課程の改訂  
平成5年～7年 ようちえんの一年—指導計画にかえて—教育課程の改訂  
平成8年 幼児の生活をみつめる  
平成9年 教育課程の改訂  
平成13年 幼児の生活をみつめる  
平成10年～15年 「親子で育つ幼稚園」をめざして—「自尊心」の育ちを考える—かけがえのない自分を大切に思う心を育む—ひとりひとりが輝く保育をめざして—  
平成16年～18年 「自尊心」を根底においた教育課程の改訂  
平成19年～20年 幼児期に必要な「からだ力」について考える  
平成21年～22年 幼児期に必要な「からだ力」を育む  
平成23年～24年 子どもの未来につながる楽しい保育の追究  
平成25年～27年 「楽しさ」から「おもしろさ」へ—探究し、思考する保育を目指して—心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成  
平成28年～30年 「楽しさ」から「おもしろさ」へ—探究し、思考する保育を目指して—心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成と子どもの実態  
令和2年 トキメキ・ヒラメキ・子どもの思い—探究し思考する保育を目指して—  
令和3年

## 本園の教育の特色

### 豊かな自然に囲まれた「こころ」も「からだ」も「考える力」も育つ幼稚園

本園は、一人ひとりを大切に、子どもたちのありのままを受け止め、よいところを見とり、伸ばし、子どもたちが楽しいと思う幼稚園を目指して教育をおこなっています。

その中で、「自尊心」と「からだ力」と「思考力」を育むことを目指しています。



### 主体的な遊びから 学びの芽を

幼児の主体的な遊びを大切に、遊びの中で幼児の姿を様々な側面から総合的にとらえ、発達にとって必要な経験が得られるようにしています。幼児が自ら遊びを見つけ、積極的に自分のやりたいことに取り組めるようにし、生きる力の基礎を育むようにしています。

### 豊かな自然を 生かして

園内外の恵まれた自然環境を最大限に生かし、幼児の豊かな感性を培います。特に園内にある「子どもの森」では、四季折々の自然の中で五感を働かせながら様々な体験ができるようにしています。

### 人と関わる 楽しさ

人間関係の基礎を身につけていくために、毎日の遊びや生活の中で友達と関わり、友達を好きになり、人に対する信頼感をもてるようにし、人と関わる楽しさを味わえるようにしています。

### 大学との 連携

奈良教育大学の附属幼稚園という利点を生かし、「わくわくカレッジ」と称して、様々な取り組みを行っています。大学の先生や学生と連携し、子どもの知的好奇心を刺激し、実体験から学ぶ喜びにつなげる教育をめざしています。

こころ

安心した園生活の中で  
自分のことが大好きになる

# 自尊心

## ○本園が考える「自尊心」の定義

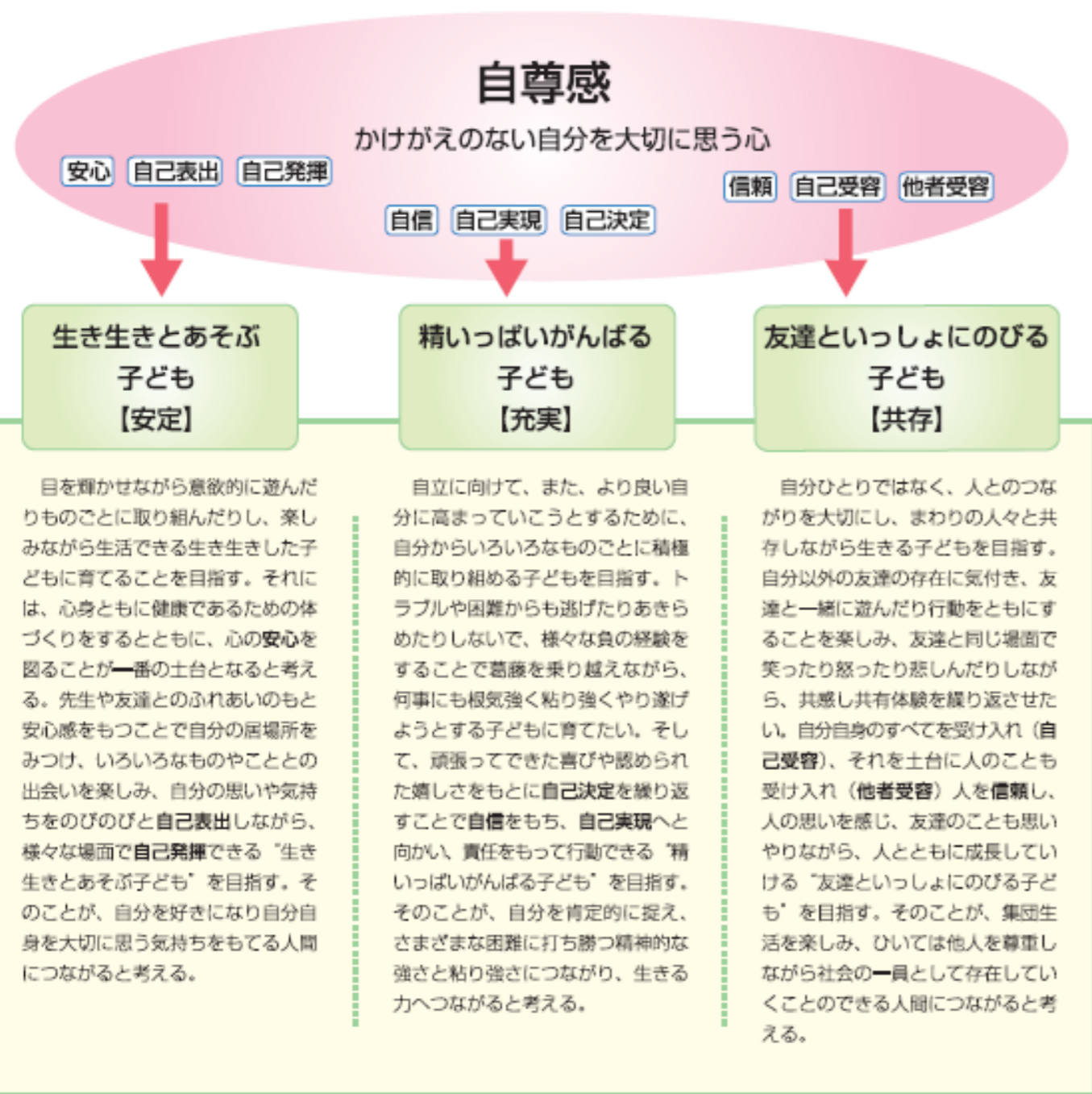
自尊心とは…

○かけがえのない自分を大切に思う心。自分の弱いところやいやなところも含めて、自分を丸ごと肯定する気持ちであり、自分の存在そのものを価値あるものと認める心。そしてその心は人のことも同じように大切に思う気持ちにつながる。

### 自尊心の要素

安心・自己表出・自己発揮・自信・自己実現・自己決定・信頼・自己受容・他者受容

## ○「自尊心」を育むための教育



## ○「自尊心」を育むための保育

### めざす保育のあり方（環境）

自分の居場所を見つけられる場

自分の思いをしっかりと出せるような、ゆったりとした時間と空間を保障し、自発的に動き出し、自分で考えたり、繰り返したり、試したりしながら自己実現できるようにする。

心の葛藤を経験できる場

トラブル、もめごとなど心の葛藤を経験する中で自分の気持ちと向き合い、人の存在を意識しながら感情の折り合いをつけ、人と共に生きていくことを学ぶ。

負の経験ができる場

失敗、つまずき等の挫折感乗り越え、自分で頑張ったという自信や満足感を糧にして、次に立ち向かう強さを身につけていく。

自己実現できる場

自分で決めて動いたことには、自分でやったという実感と満足感を伴う。自分に自信をもって生活できるよう、何度も何度も自己決定を繰り返していく。

### めざす保育者のあり方（援助）

安心感を与えられる保育者

自分のすることを肯定的に見てもらえるという安心感があると、自分に自信をもち、自分を大事に思い、ありのままを躊躇せずに素直に出せるようになる。子どもをまるごと受け止め、子どもに対する愛情を伝える。

許容範囲の大きな保育者

子どもの言動に対し、失敗しても、間違ってもいよという温かい雰囲気をもたせながら、物事に関して柔軟な幅広い見方を伝える。

気持ちを大事にする保育者

指示を与える言葉より、気持ちを伝える言葉こそ、子どもの心に響き子どもの心を揺り動かす。子どもの思いと保育者の思いとのバランスをとりながら、子どもの成長を支える。

待つことのできる保育者

子どもを信じ、子どもの力を信じ、自分で動き出すまで待つという余裕が保育者には必要である。自分で頑張る、乗り越えた時に認め、共に喜び合う。

### めざす保護者とのかかわり

保護者の自尊心を尊重する

それぞれの保護者の良いところ、子育てで頑張っているところなどを、具体的に話し認めることが、保護者の自尊心につながり、それが子どもの自尊心を育てることにつながる。

保護者が子どもを肯定的に見ることができるよう働きかけをする

園での子どもの良いところ、大きくなったと思うところなど、一人一人の素晴らしいところを意識して伝え、子どもの成長を共に認め合うようにする。

自尊心について保護者とともに考える

保護者会やクラス懇談会などの機会を捉え、自尊心をテーマにした話をしたり、話し合いをもったりして、子育てに関する理解を深める。



先生のそばにいと安心だね



みんなが納得するまで話し合いしようね



やりたいと思ったことはことごとん実現しよう

からだ

思いきり走りまわられる園庭で  
体を動かすことが大好きになる

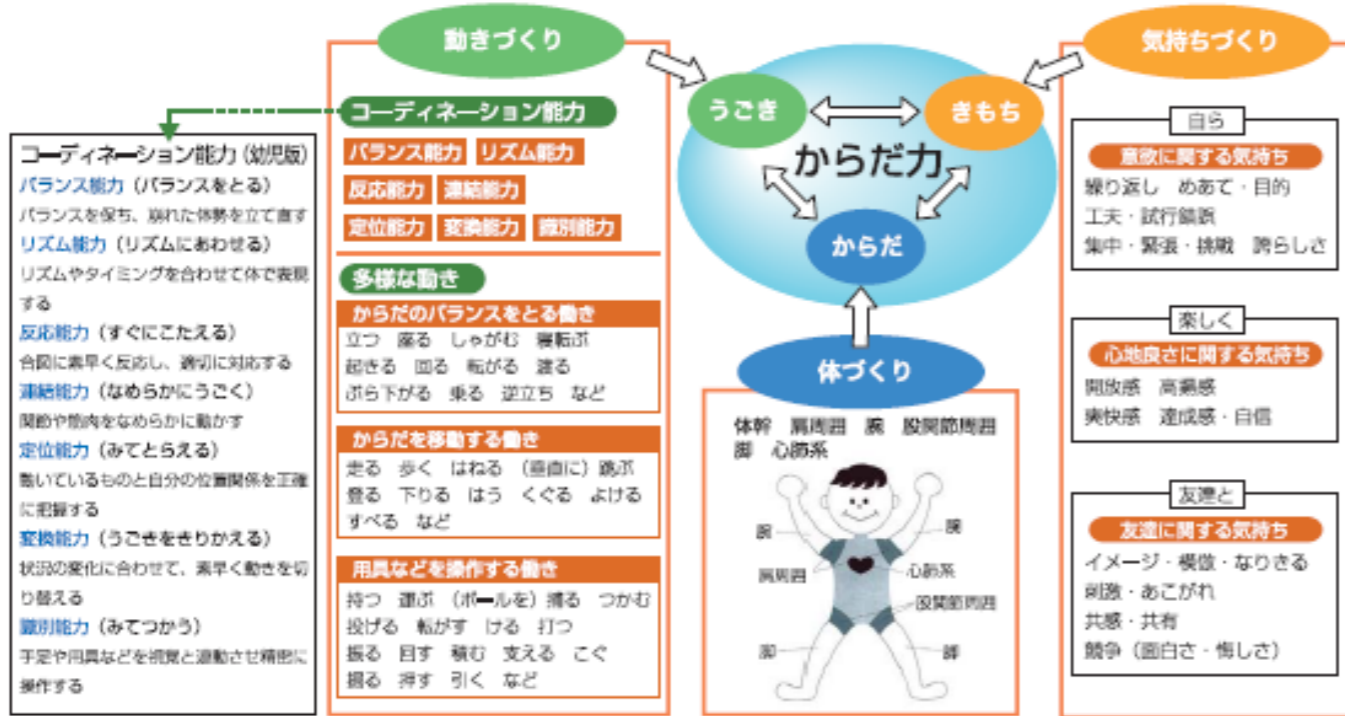
からだ力

○本園が考える「からだ力」の定義

からだ力とは…

生涯にわたる健康な心や体をつくるために、幼児期に育みたい体力や運動能力、運動に対する意欲等を総称して『からだ力』と呼ぶ。  
『からだ力』は[からだ][うごき][きもち]の3つの要素が相互に影響し合って高まっていくと考える。  
「体づくり」「動きづくり」「気持ちづくり」の3つの角度からアプローチしていく。

○「からだ力」を育むための教育



「からだ」

自分の体を自在に操り、体を動かす楽しさを十分に感じられるような必要最低限の機能が備わることが目標である。筋肉への刺激や関節の動きの柔軟性、自由度が高まることで運動の基盤である。また、体を動かすことによって自然に高まっていく心肺機能も含め、**将来の体の土台づくり**という考えの基に「からだ」としてまとめている。

「体づくり」

体を6つの部位に分けて考え、その部位を意識的に動かし、機能を十分に働かせることができるようにしていくことを目指して「体づくり」へのアプローチをする。

「うごき」

幼児期の神経機能の発達、5歳ごろまでに大人の8割程度まで発達すると言われている。人間の生涯のさまざまな場面において、必要な活動・運動の基になる基本的な動きを幅広く獲得する大切な時期でもあるこの幼児期に、多様な運動刺激を与え、体内にさまざまな神経回路を張り巡らせることが大切と考えている。幼児期運動指針(2012年)による「動きの洗練化」「動きの多様化」の2方向の目標を「うごき」としてまとめている。

「動きづくり」

「動きの洗練化」「動きの多様化」の2つの視点からアプローチする。動きの多様化は「幼児期運動指針」(2012)を参考に、動きの洗練化は調整力と深くかわり、体を動かす際に必要なコントロール能力とされている「コーディネーション能力」をベースにする。

「きもち」

運動指導の頻度と運動能力の関係を調べると、それそれ必ずしも比例するものではないというデータが出ている。また、自由遊び中心の園に比べ、一斉に運動指導を行う園のケースには、幼児の発達の特徴に相応しないという結果も明らかにされている。幼児期には心と体が相互に影響しあって発達することが大切で、運動が子どもの自己決定に基づいた自発活動である遊びの形で経験するのが有効であることを示している。このことから、運動に対する興味・関心、意欲などを「きもち」としてまとめている。

「気持ちづくり」

幼児期の子どもたちは、自ら楽しく体を動かし、体を動かすことが好きになるような気持ちを育むことが大切である。そして、自ら体を動かすためには「意欲」が、楽しさにつながるためには「心地良さ」が不可欠である。また、これら集団の場では「友達」の存在が大きいと考え、「きもち」をさらに3つに整理してアプローチする。

○「からだ力」を育むための学年別ポイント

3歳	4歳	5歳
<p><b>特徴的な姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふみやぎこちなさがあり、基本的な動きが未熟</li> <li>未熟ながらも多様な動きが一通り可能</li> <li>次第に身体の動きをコントロールし、より巧みな動きを獲得</li> <li>心肺機能、筋肉の発達は未熟</li> </ul> <p><b>体づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全身を動かす</li> <li>様々な部位を動かす</li> <li>基本的な運動量を増やす</li> </ul> <p><b>動きづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全身を使う遊びの多様な動き</li> <li>「体のバランスをとる動き」(立つ・座る・寝転ぶ・起きる・回る・転がる・這る・ぶら下がるなど)</li> <li>「体を移動する動き」(歩く・走る・跳ぶ・登る・下りる・はう・よける・すべるなど)</li> </ul> <p><b>気持ちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら進んでの繰り返し</li> <li>体を動かす心地よさ、楽しさ</li> <li>開放感・高揚感</li> <li>爽快感</li> <li>真似る面白さ</li> </ul>	<p><b>特徴的な姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な動きの定着</li> <li>全身バランスをとる能力が発達</li> <li>身近な用具を操作する動きが上達</li> <li>心肺機能の高まり</li> <li>友達と一緒に運動する楽しさ</li> <li>環境との関わり方、遊び方を工夫して多くの動きを経験</li> <li>先生や友達の動きを真似たり、遊びを発展させたり、ルールをつくったりすることへの興味</li> </ul> <p><b>体づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全身を動かす</li> <li>様々な部位を動かす範囲を広げる</li> <li>より多様な運動を増やす</li> </ul> <p><b>動きづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体全体でリズムをとる</li> <li>用具の巧みな操作、コントロール</li> <li>動きのレパートリーが増える</li> <li>バランス感覚</li> <li>異なる二つの動きを協応</li> </ul> <p><b>気持ちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりのめあて・遊びの工夫</li> <li>動きをつくり出す面白さ</li> <li>面白さの追求・挑戦</li> <li>好奇心・スリル・高揚感</li> <li>爽快感・達成感・イメージ</li> <li>なりきり・友達と一緒に</li> </ul>	<p><b>特徴的な姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>無駄な動きや力みなどの過剰な動きの減少</li> <li>全身運動が滑らかで巧み</li> <li>基本的な動きの組み合わせが可能(連続して行う・同時に行う)</li> <li>イメージに沿った動きの高い再現性</li> <li>様々な動きが上達</li> <li>身体的な成熟、機能的発達</li> <li>友達と共通のイメージをもって遊んだり、目的に向かって集団で行動したり、友達と力を合わせたり、役割分担したりして満足するまで繰り返し取り組むでの遊び</li> </ul> <p><b>体づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全身を全力で動かす</li> <li>様々な部位をなめらかに動かす</li> <li>運動の量と質を向上させる</li> </ul> <p><b>動きづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の基本的な動きの組み合わせ</li> <li>よりなめらかで巧みな動き</li> <li>リズムやスピードのコントロール</li> </ul> <p><b>気持ちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標・遊びやルールの工夫</li> <li>集中・挑戦・誇り</li> <li>高揚感・爽快感</li> <li>達成感、自信</li> <li>全力でやる心地よさ</li> <li>教え合い、話し合い</li> <li>みんなで目的に向かって</li> <li>競争(面白さ、悔しさ)</li> </ul>

3歳児 坂道を車で降りる



**育つと思われるからだ力**  
からだ(体幹・股関節周囲・脚)  
うごき[バランス・連結・変換]  
きもち(繰り返し・緊張・爽快感)

4歳児 籠をめぐって玉を入れる



**育つと思われるからだ力**  
からだ(体幹・腕)  
うごき[連結・識別]  
きもち(めあて・達成感)

5歳児 友達と高鉄棒からジャンプする



**育つと思われるからだ力**  
からだ(体幹・股関節周囲・脚)  
うごき[バランス・反応・連結]  
きもち(繰り返し・めあて・挑戦・高揚感・自信・共感)

○2014年度「ひかりのくに」より「運動遊びでからだ力アップ！」発刊



2014年6月には、これまでの研究成果および実践をわかりやすくイラスト等で表し「運動遊びで「からだ力」アップ！」と題した本を、ひかりのくににより出版して全国の幼児教育関係者の保育実践に生かしてもらっています。

○2015年度文部科学省スポーツ庁「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」受託



2015年度には、文部科学省の「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」の委託を受けることとなり、本園が作成した指導計画に則った実践による保育を進め、その効果を実証しました。

2016年3月には、「幼児期の運動に関する指導参考資料」(文科省)として、本園の実践や取組も掲載された冊子及びDVDが全国の幼稚園・こども園・保育園等に配布されました。

# 『からだ力』アツプ! マップ



## 坂道

坂道をスクーターで降りたり、ボールを転がしたりして遊ぶ



## ケンパ

渡り廊下でケンパをする  
右足ケンケン、左足ケンケンと  
両方の足を交互に使う



## うんてい

ぶらさがったり、ぶらさがり  
ながら移動したりする



## 鉄棒

様々な高さの鉄棒で  
いろんな技をして遊ぶ



## びよんびよんホップ

門から保育室までの通路で、  
円に合わせて、片足とびや  
大股とびをする



## 土山

土山に登ったり降りたり、  
キャタピラで転がったりする



## 三角塔

三角塔に登ったり、様々な遊具と  
組み合わせたりして遊ぶ



## 運動場

広い運動場で思い切り  
走ったり、鬼ごっこを  
したりする



## 壁越え

よじのぼって壁を越える



またいで、両手を使って前に進む

## 丸太

立ってバランスをとりながら歩く



## たがいちがい橋

2本の勾配の違う橋を、  
バランスをとりながら歩く



## ゆらゆらロープ

竹の一本橋の上を、ロープを持って  
歩いたり、ロープにぶら下がったりする



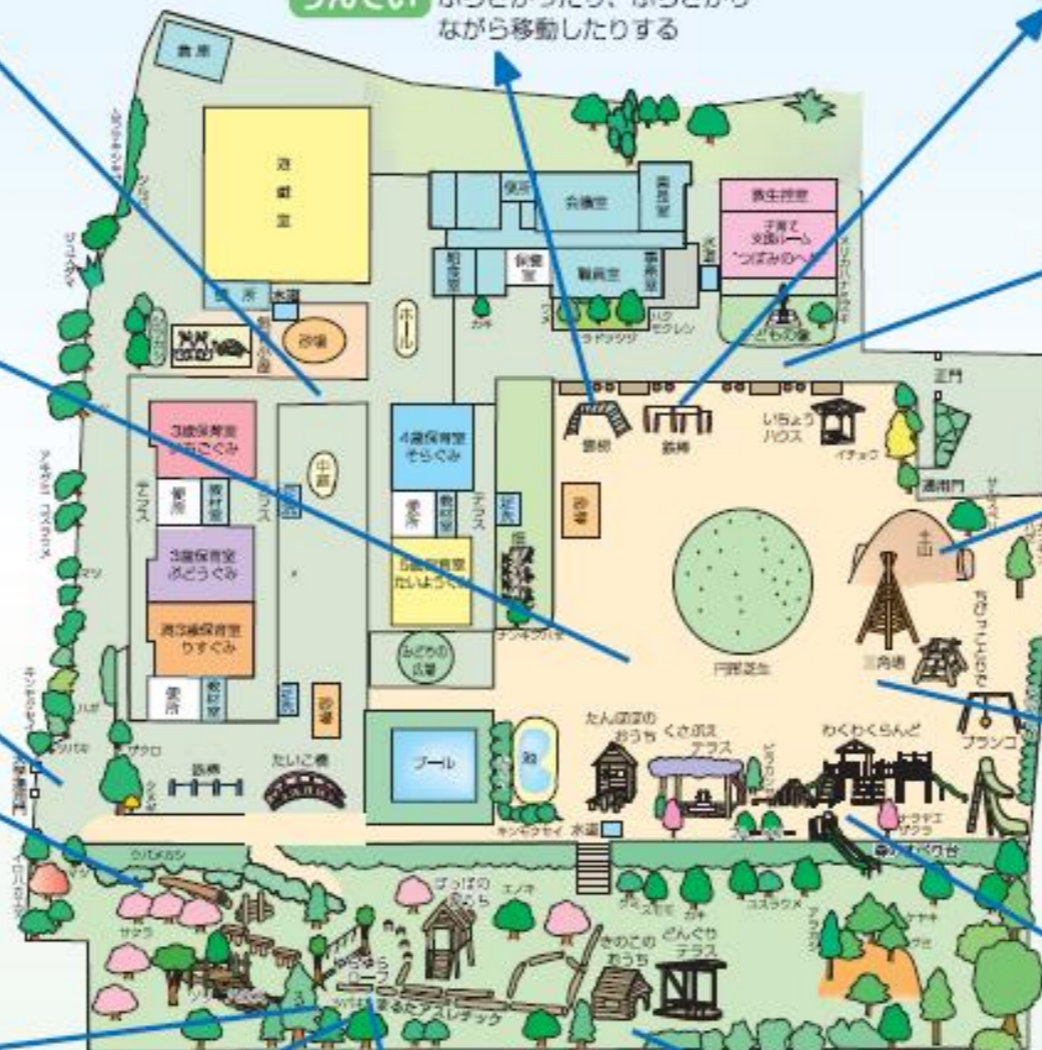
## ターザンロープ

ロープにぶら下がり、大きく揺らす



## わくわくらんど

ロッククライミングをしたり、すべり棒をしたり、  
ネット登りをしたりする



考える力

工夫したり試したりすることを  
通して考えることが大好きになる

思考力

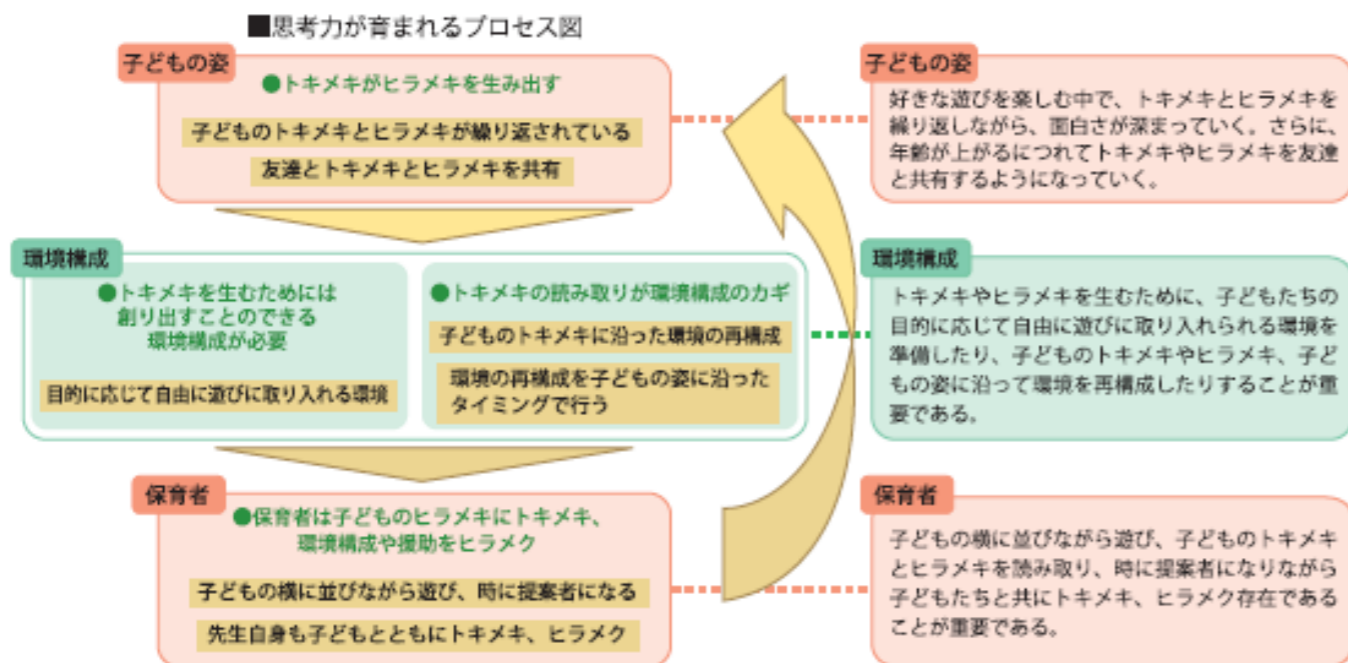
自らが課題意識をもち、  
仲間と考え、  
探究し創造していく力

トキメキとは  
子どもたちが「ヒト、モノ、コト」に出会ったときに、感じる面白さやワクワクした気持ちであり心が揺れ動かされること。  
ヒラメキとは  
トキメキを受け、子どもが感じたり、考えたりしたこと。

○本園が考える「思考力」の定義

思考力とは…  
子ども自らが課題意識をもち、仲間と考え、探究し創造していく力であると捉える。子どもたちは「ヒト・モノ・コト」に出会って、心がトキメキ、そのトキメキを受け、様々なヒラメキを生み出す。トキメキとヒラメキを繰り返すことで、探究し思考する子どもの育成を目指す。

○子どもの思考力が育まれるプロセス



このようなプロセスを繰り返すことで子どもたちの思考力が育まれていくと考えている。

保育者資質向上のための研修方法の開発

○「保育わくワークシート」「保育ほっとホットトーク」

本園が開発した保育者資質向上のための保育記録「保育わくワークシート」と保育カンファレンス「保育ほっとホットトーク」が奈良県版就学前教育プログラム「はばたくなら」に取り入れられ、奈良県内で活用されている。

・2017年度研究紀要「子どもたちの未来につながる「楽しい保育」の追求」参照

○「フォトチャット研修」

研究テーマなどに沿って選んだ写真1枚とその時のエピソードをもとに、視点を絞って保育者間で語り合い、子どもの学びや経験、保育者の思いなどを探る研修方法。

研究会での発信により、幼児教育関係機関等で活用されている。

・2020年・2021年研究紀要「楽しさ」から「おもしろさ」へ～探究し、思考する保育を目指して心のトキメキから知的なヒラメキを生む環境構成」参照



奈良県就学前教育プログラム「はばたくなら」



フォトチャットの記録



フォトチャット研修の様子

○思考力にかかわるキーワードと子どもの姿

3歳児

肌で感じる  
3歳児なりの仮説や予測を立てる  
自分だけの特別を生み出す  
みんなと一緒に  
期待する  
見立てる  
見て真似る  
予想や予測をする  
見る  
感触が面白いもの  
長いものや大きいもの  
保育者の存在  
少し手を加えると本物らしくなるもの  
繰り返してできる環境  
自分が少し特別に思えること  
真似をしたり表現したりしたくなる経験  
自分のしたいことができる環境

思考・探究する姿

**見て真似る 自分だけの特別を生み出す**  
友だちがペットボトルで水を注いでいる様子を見て、自分もやってみようとしています。容器に水を注ぐことを楽しむ子ども、砂が入っているところに水を注ぐことを楽しむ子どもなど、楽しみ方は様々です。友だちの様子を真似ながらも、自分なりの楽しみ方を見つけています。

遊びが面白くなるための要因

**繰り返してできる環境**  
洗車するイメージで砂や水を車にかけて遊び始めました。車に砂をかけた後、かけた砂をカップで集めたり、バケツやカップで水を流してかけたりすることが楽しく、何度も何度も繰り返して遊んでいます。何度も繰り返して行う中で、水を入れる道具を持ち替えたり、砂と水を両手に持って運んできたりと、自分のやりたいことを楽しむための方法を見つけていきました。

4歳児

見立てる  
こだわる  
素材の性質に気付く  
変化を楽しむ  
真似る  
試行錯誤する  
伝え合う  
疑問を持つ  
予測する  
試す  
遠いに気付く  
確かめる  
イメージを再現する  
五感を使う  
色や形が様々な素材  
アイデアが豊富な友だち  
自在に変えられる素材  
わかりやすい目的  
五感で感じられる素材  
自分で操作できる道具や用具  
自然現象  
こだわりをもって遊ぶ  
保育者の存在  
多様な道具

思考・探究する姿

**試す・遠いに気付く・確かめる**  
数日かけて作ったサラサラの砂にヤカンからゆっくり水を入れ砂がどよめくようになるのか確かめています。「(水を入れた部分)茶色くなった」と、自分なりの表現で保育者に伝えます。さらにしゃもじを使って混ぜ始めました。すると、「あ！重い」と、サラサラの状態と水分を含んだ状態の重さや手の届きの遠いに気付いています。

遊びが面白くなるための要因

**こだわりをもって遊ぶ**  
水を最後まで流したいという目的をもち雨樋や塩ビ管などの高さを木片やプラスチック製の容器等を使い、繰り返して調節し、水が漏れずに最後まで流れるコースを完成させました。目的への強い思い(こだわり)が、工夫や試行錯誤を生んでいます。

5歳児

友だちと同じ目的やイメージをもつ  
共感してほしい気持ちをもつ  
友だちと共通の尺度(高さ、長さなど)をもつ  
観察する  
生活経験を遊びに取り入れる  
予想や予測をする  
伝え合う  
疑問を持つ  
いろいろな方法を試す  
繰り返して追求する、探究する  
いろいろな方法を試す  
本物らしさを追求する  
むずかしさ  
憧れの友だち  
位置エネルギー  
多様なかわりが生まれる遊びやモノ  
保育者の存在  
試せる道具や素材がいろいろある  
「もっと」「あと少し」という子どもの意欲

思考・探究する姿

**いろいろな方法を試す**  
ボーリングのピンに見立てたペットボトルを狙ってボールを転がします。ボールを転がすスピードを変えたり、ボールを当てる場所を変えたりして、一本でも多く倒す方法を試しています。ピンを並べる子どもも、たくさん倒されないように並べ方を徐々に工夫しています。

遊びが面白くなるための要因

**むずかしさ**  
自分たちで巧技台を組み立てて、その場所を鬼ごっこをします。「平均台は飛び越えたり、下をくぐったりしよう!」「高いところは台を置いて二段ジャンプだ!」と、より難しくするための方法を考え、挑戦しています。

## 主体的な遊びから 学びの芽を

幼児の主体的な遊びを大切に、遊びの中で幼児の姿を様々な側面から総合的にとらえ、発達にとって必要な経験が得られるようにしています。幼児が自ら遊びを見つけ、積極的に自分のやりたいことに取り組み、生きる力の基礎を育むようにしています。

3歳児

触ってみる



ダンゴムシをちゃんとさわったら、まんまるになるね。

自分なりの方法でやってみる



こうやったら、いっぱい運べるよ！

試してみる



砂を入れて水を入れたらどうなるのかな？

4歳児

没頭する



力いっぱい手で掘って大きな池を作ろう！

予測してみる



大きなタイヤを転がしたら、どこまで転がるかな？

挑戦する



ダブル跳びをやってみよう！  
(長縄を回している中で前跳びをする)

5歳児

よく考える



バランスをくずさないように、土台をしっかりかためていこう！

調べる



「この虫何かな」「これと同じかなあ」

友だちと一緒に高め合う



一輪車でお友だちと出会う、「はい、タッチ！」

## 豊かな自然を 生かして

園内外の恵まれた自然環境を最大限に生かし、幼児の豊かな感性を培います。特に園内にある「子どもの森」では、四季折々の自然の中で五感を働かせながら様々な体験ができるようにしています。

春

桜の下で

子どもの森の「ぼっぼのおうち」でままごとしようね。

夏

虫さがし

「バッタをみつけたぞ！」  
そーっと、そーっとだよ。

秋

はっばのプール

落ち葉で葉っぱのプールができたよ。  
「1. 2. 3でふわー」



冬

そりすべり

雪が積もったら、土山からそり滑りができるよ。



## 人と関わる 楽しさ

人間関係の基礎を身につけていくために、毎日の遊びや生活の中で友だちと関わり、友だちを好きになり、人に対する信頼感をもてるようにし、人と関わる楽しさを味わえるようにしています。



一緒に発見

「ここにいるんだよ」と友だちに教えてもらった丸太の間隙を覗き込んでダンゴムシを見つけました。



同じイメージをもって「恐竜の化石を掘るぞ！」友だちや先生と一緒に作ったキャンプを拠点にイメージを広げて、遊んでいます。



楽しさを共有

友だちと一緒に車に乗って「同じだね」「楽しいね」と顔を見合わせて喜んでいます。



友だちのために「ぼくにまかせて」自分たちでつくった動く車に友だちを載せて、力いっぱい押しています。

## 大学との 連携

奈良教育大学の附属幼稚園という利点を生かし、「わくわくカレッジ」と称して、様々な取り組みを行っています。大学の先生や学生と連携し、子どもの知的好奇心を刺激し、実体験から学ぶ喜びにつなげる教育をめざしています。

### うさぎの勉強会



本学の自然環境センター研究員である獣医師が来園し、うさぎの抱き方や仕草の意味などを教えていただくことで、子どもたちに、愛着の気持ちが育まれています。

### ウインドアンサンブル演奏会



大学のウインドアンサンブルによる演奏会を催し、子どもたちの好きな曲、知っている曲などを聴かせてもらい、音楽に親しみ楽しい時間を過ごしています。

### ユネスコクラブによる世界遺産学習



大学ユネスコクラブの学生が、奈良の文化遺産や自分たちが住んでいる奈良について、子どもたちの興味や関心を高めるような話をしてくれます。

### 大学サークルでの体験



剣道部やサッカー部、アカペラサークルなど大学のサークルの学生に、活動しているところを見せてもらったり、体験させてもらったりします。

# ○幼稚園の1日

※時間は日によって変わります。

9:00 登園



毎朝体操をすることで、脳を目覚めさせ、元気に楽しく意欲的に過ごせるようにする。子どもたちが楽しめる曲や動きを取り入れ、普段動かすことの少ない部位も意識して動かせるようにする

## 「おはようたいそう」タイム

自ら選んで遊ぶ（保育室、運動場、子どもの森など園内の好きな場所で好きな遊びをする）

10:30 片づけ

10:40 クラスのみんなで遊ぶ（この時期に必要な活動を経験する）



花紙で遊ぼう



自分の顔を描こう



広いプールで



イス取りゲーム



新聞紙のプールで泳ごう



転がしドッジボール

11:30 弁当・給食（なかよしランチ）を食べる



パーティーションを立てて食べています



子どもの森で

12:15 運動場や子どもの森で遊ぶ

13:00 降園準備をする

13:15 おはなしタイム



おはなしタイム



絵本をスクリーン（各保育室に完備）に映しての読み聞かせ

13:00 満3歳児 降園

13:40 3歳児 降園

13:50 4歳児 降園

14:00 5歳児 降園

15:00 園庭開放終了……

園庭開放  
弁当・給食日（月・火・木・金）  
の降園後から15時まで

16:00 預かり保育終了……

預かり保育（なかよしタイム）  
毎日降園後から16時まで

【午前保育日】降園時間

満3歳児	11:20
3歳児	11:30
4歳児	11:40
5歳児	11:50

## 当番活動

うさぎ当番



ちびっこせんせい



おやつ・給食当番



## 給食

なかよしランチ



友だちや先生と一緒に同じ給食を食べることを楽しみにしたり、今まで食べたことのないおかずや食材にも関心をもちたりすることにつながっています。

## 異年齢保育

こじかの日



異年齢の友だちと2または3人組で遊ぶ日です。年長児が世話をしたり遊びを伝えたり、年少児がまねたりすることで遊びの幅が広がり、思いやりや楽しさなどの気持ちが育まれます。

## 預かり保育

なかよしタイム



保育終了後から16時まで、遊戯室や園庭で遊ばせます。個人でじっくり取り組める遊具や少人数で関わって遊べる遊具などを用意して、それぞれのペースでゆったり過ごせるようにしています。

## 保健室



附属幼稚園には、保健室の先生（養護教諭）がいて、子どもの心身の健康をサポートしています。手洗いの仕方などの保健指導を行っています。

## 幼稚園の1年

### 1学期

4月

始まりの会  
入園式  
クラス懇談会  
個人懇談

5月

子どもの日の会  
春の遠足（奈良公園・若草山など）  
保育参観  
クラス懇談会  
“こじかの日”開始  
健康診断

6月

土曜参観  
交通安全教室  
引き取り訓練  
じゃがいもほり  
人形劇鑑賞会  
水遊び・プール遊び開始

7月

個人懇談  
七夕の会  
1学期終わりの会  
たべのつどい（5歳児）  
夏休みプール開放

### 2学期

9月

2学期始まりの会  
教育実習（4週間）  
音楽鑑賞会  
バス遠足（動物園・水族館など）

10月

運動会  
親子活動（育友会主催）  
さつまいもほり  
介護老人保健施設訪問（5歳児）

11月

秋の遠足（大仏殿・二月堂など）  
保育参観  
クラス懇談会  
どんぐりひろい  
附属中学生との交流会  
附属小学校給食体験（5歳児）

12月

音楽鑑賞会  
個人懇談  
クリスマス会  
2学期終わりの会

### 3学期

1月

3学期始まりの会  
芸術鑑賞会  
元気マラソン

2月

豆まきの会  
保育参観  
クラス懇談会  
世界遺産学習（5歳児）  
附属小学校体験（5歳児）

3月

ひなまつり  
お別れ会  
卒園式  
終わりの会

○誕生会（毎月）  
○身体測定（隔月）  
○避難訓練（年10回程度）



じゃがいもほり



交通安全教室



ゆうべのつどい



遠足（動物園）



運動会



附属中学生との交流



音楽鑑賞会



クリスマス会



元気マラソン



附属小学校体験





園歌 あーむしね  
 きょうがきた あーむしね  
 はずしてはすて ぼしけら子  
 奈良の子を、わーい子  
 おまておまて つまてね  
 びーびーけしき 地球の子  
 あーむしね またまたね  
 ホップステップ ジャンプ子  
 奈良の子を、わーい子  
 たーんたいーん、おほーい  
 こまてしーい、宇宙の子

# 園内地図

